参考資料（写真修復手順）

修復作業は、被災地から送られてきたアルバム写真を１枚ずつ確認し、丁寧にはがすことから始まります。まず「修復可能なもの」と「そうでないもの」に分類し、その後スキャニング作業を行い、しみや汚れ、破れを画像処理ソフトで補修。
そして新しい写真として蘇生させていく作業を繰り返します。

「写真を修復する」といっても、失われた画像情報そのものを蘇らせるのではなく、あくまで残された周辺の画像を手がかりにきれいに加工するというものですが、その工程は地道で、中には１枚を修復するのに数時間を要するものもあり、時間と根気が必要とされる作業です。このような丁寧な作業工程を経て、被災地から送られてきたアルバムは、数ヶ月にわたる修復作業を経て、被災者の元へ戻されます。

１）修復作業は、希望者から送られてきたアルバムの状態を記録し、修復可能かを判別することから始まる

写真によって、洗浄可能なものと不可能なものがある。主に家庭用のインクジェットプリンターで印刷した写真は洗浄できるものが多いが、ポラロイドやチェキなどの写真は写真背面が水濡れするため洗浄が難しい。また、インクジェットプリンターには染料系と顔料系のインクがあり、染料系で印刷されたものは長時間水につけるとインクが流れてしまうため手早く清掃しなければならないなど、作業の経験から得た注意点等がマニュアルに記載されている。

２）写真の状態をデジカメで１枚ずつ撮影し記録する

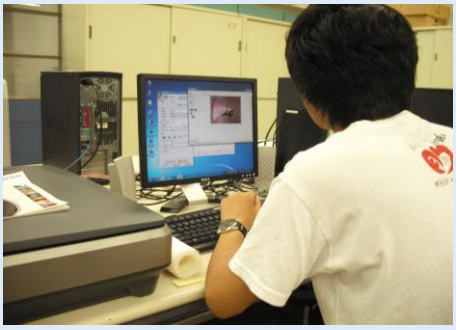
写真がどの場所に貼ってあったか、アルバムの写真位置等も含めて記録。
原型をとどめていないものや人の顔が完全に消えてしまっているものは修復が困難のため、修復可能か否かを判断し状態別に付箋をつけ分類。

（分類）
•黄色の付箋→Photoshop で修復可
•青色の付箋→スキャナーの補正機能修復可
•赤色の付箋→修復不可

３）ボランティアが写真を１枚ずつ丁寧に砂ボコリや汚れを落とす

４）洗浄した写真を乾燥させた後、スキャナーで読み取りデジタルデータ化する

５）Photoshop(画像編集ソフト)を用いて修復後、写真を印刷。アルバムにして修復依頼者に返送



作業手順の統一（誰でも同じ作業が行えるように）を目的にマニュアルを作成
（マニュアルは工学院大学の HP から閲覧可）